

IEEE 広島支部 2007 年第 3 回理事会議事録(案)

日時: 2007 年 9 月 19 日(水)14:00-16:30

場所: 広島インテリジェントホテル オフィスセンター4F 第 5 会議室

出席者: 角田、堀田、六井、大久保、玉木、塚田、中西、西、吉田、山口、舟阪

委任状提出者: 土屋

議事内容

1. HISS 関連

・進捗報告

中西理事より HISS 進捗状況が報告された。

1) 基調講演については学生に司会を任せる。予算が厳しい場合は講演のみ IEEE 広島支部の主催ということにして支部が支出するという手もある。

2) パネルディスカッションについて、オーガナイザが未定で間に合わない可能性が危惧される。司会は学生にせざるを得ない場合も。パネリストについては一人決まっているが、弁理士の先生や地元大学で知財専門の先生を迎えられないかという意見が出された。

3) 企業展示については 3 社と交渉中。昨年同様、プレゼンテーションもお願いする方向。

4) 高校生体験講座についてはメーリングリストに情報が出てきていないので心配である。対象としては地元で大学に出張講義を頼むような高校の学生にしてはどうか。教員のサポートも必要という意見が出された。

5) 論文・テクニカルプレゼンテーションについては、査読審査用紙を見直し、条件付採録が出すぎないようにしたほうがよい。通知から最終原稿までの時間が短い、概要のチェックは甘く、最終原稿をしっかりとみたほうがよい。来年度以降の課題とする。24、25 日の入替発表になるが、割り振りは実行委員側で決めることとした。論文賞の審査については審査委員を追加して対応したいので、まず理事の専門分野を調査し、補強が必要な分野を中心に審査委員の選定をすすめる。

6) 広報については有料広告を依頼するのではなく、話題としてとりあげてもらう程度の依頼を想定している。

7) 会場については理事会や審査会が開催できる部屋も確保されている。

8) 大学周辺には食事をする場所がほとんどないので、弁当を用意し、発表者だけでなく来場予定の方々から希望者を募る。

9) 予算については会場費、講演者の旅費などで支出超過である。

・後援申請

舟阪より申請状況の紹介があった。電気学会についてはシンポジウム支援制度があるので、同学会員の西理事に申請を依頼することとした。大学の後援については学生が主体となって依頼すべきという意見もあったが、昨年と同様に理事が所属の機関に依頼することとした。

2. 2007 年第 2 回 Japan Council 理事会報告

舟阪より JC 理事会の内容が報告された。西日本 EMBS Chapter が Joint chapter という珍しいケースなので注目されていた。合わせて玉木理事より、Chapter Promotion についての調査結果が紹介された。会員が多いはずの関西や福岡の Computer Chapter でさえも活動がみえない。広島で作っても活発にするのは難しいのではないかという意見が出された。

3. IEEE 広島支部功績賞

西理事より説明がなされた。ほぼ資料通りだが、規定については項目 3 を自薦を除くという意味になるよう変更。項目 4 の感謝状は賞状とすることで承認。選定手続は推薦があったときにのみ実施する。人数制限はとりあえず無しで始める。想定する対象は支部長経験者であるが、公開せず、議事録に留めるのみとする。副賞についての予算は Japan Council から支援費の形で確保してはどうかという意見が出された。また推薦様式については推薦者の会員番号や支部での役職、連絡先については推薦者と候補者の両方が必要である。

4. EMBS 西日本 Joint Chapter への支援について

舟阪より説明。今回の Joint Chapter は福岡支部がメインということで特に金銭的支援はしない。支部として Chapter に支援を出すかどうかについて、今後の検討課題であるという認識で合意した。

5. 共催・協賛の承認

・ IWINIS2007

舟阪より支部内会員の方から出された国際会議 IWINIS2007 への共催の依頼について説明があった。協力については異論がなかったが、金銭的負担がないので協賛ではないかということで先方に確認することとなった。→後日、協賛ということで先方に通知

・ ITC-CSCC2008

山口理事より国際会議 ITC-CSCC2008 への協賛と協賛金の依頼があった。in partition with で開催された仙台支部の例と同様にしたいということだが、in cooperation with との違いがはっきりしないという意見があった。協力について異論はなく、2 万円の支援金を支出することとした(開催の 2008 年予算より)。

6. その他

次回 R10 ミーティングは来年 2 月にインドで行われるが、理事会構成員が全て大学関係者であり、多忙な時期の参加は難しいと考えられる。Japan Council に打診の上、やむを得ない場合は欠席とする。

次回(2007 年第 4 回)理事会は HISS 会場で初日のセッション終了後に行う。会場案にある無料の部屋での開催を予定。2 日目の昼に論文審査会を行う可能性がある。

理事会の構成員について、Chapter Chair の参加が必要かどうか確認する。必要なら次回理事会への参加を求める。